

平成29年度第1回高梁市地域公共交通会議議事録（要旨）

日時：平成29年 4月24日（火）13：30～

場所：高梁市文化交流館 3F 講座室

資料：・会議次第、委員名簿、席次表

- ・平成28年度 生活福祉バス・ふれあいタクシー利用者数の推移
- ・高梁市公共交通時刻表



1. 開 会

会議成立報告

2. 会長あいさつ

3. 報 告

- (1) 平成28年度 生活福祉バス・ふれあいタクシー等利用状況について
質疑なし

4. 議 事

- (1) 備中松山城路線バスの運行について

赤木委員：前にいただいたチラシなどを見ますと、駅から途中の駐車場までこの路線バスで行って、そこから更にシャトルバスに乗り換えて行くというような流れであったと思いますが、一連の流れというものを観光客の方に御紹介するようなチラシはご用意されているのでしょうか。

事 務 局：お持ちすればよかったのですが、二次交通を総括的に紹介したチラシ、パンフレットを作っており、駅、駐車場で配布しております。

赤木委員：例えばですけど、岡山市内からJR 伯備線で来られて、駅前のバスセンターからそのバスへの乗り換えが一連になっていたりするのでしょうか。

事 務 局：基本的には電車からの乗り換え、乗り継ぎを想定したダイヤです。在来線、やくも等もございまして、出来るだけ乗りやすい在来線からの乗継ぎをイメージしてダイヤを組んでいます。

赤木委員：ダイヤの設定は他の事情もあって大変だろうと思いますが、要は時刻表、岡山駅からやくもならばこれ、普通列車ならこれ、ということで、乗り継ぎがこうなったら出来るということが一枚の紙で、一連で分かるようになっていると更に良いのかなと思います。

事 務 局：公共交通の全体の時刻表に路線バスも載せていただいておりますし、電車の時間も載せていますので、更に工夫が必要かもしれませんが、こういう形で紹介していきたいと思っています。

赤木委員：これですと例えば伯備線の発車時刻などをご検討いただければと思います。

事 務 局：ありがとうございます。

藤澤会長：ありがとうございました。他に何かございませんか。

政森委員：松山城行きバスは、バスセンターが混雑するので高梁駅東口から出ると聞いていたのです

が、どうなっていますでしょうか。

事務局：バスセンターから出ています。

政森委員：今後お客さんが増えた場合、東口が出来たのですから、そちらを利用した方が良いのではと思います。利用者が増えた場合の対応はどのように考えていらっしゃいますか。

事務局：備北バスさんと相談させていただきます。

藤澤会長：他にございますか。

新屋委員：現在、城見橋で乗り換えています。一度に運ぶ方法を検討課題に入れていくべきではないかと思っています。乗り換えは、お客さんにとっては非常に不便です。料金的な設定も課題になるかと思いますが、例えば8時の便はそのまま一番のバスであげてしまうと、シャトルバスとの離合をうまくやりながら、そのバスも城見橋から上にあげても良いのではと思いますので、今後のご検討課題に入れていただければと思います。

事務局：ありがとうございます。その辺りも備北バスさんと相談させていただきたいと思います。

藤澤会長：ありがとうございました。他にございませんか。

無いようでしたら、(1) 備中松山城路線バスの運行について、事務局の方からの提案のとおり、ご承認いただけますでしょうか。拍手をお願いします。

ありがとうございました。拍手多数ということで(1)は承認をさせていただきました。

ありがとうございました。続きまして(2)その他で事務局の方から何かあればお願いします。

(2) その他

事務局：一点お願いいたします。

高梁市地域公共交通会議の委員の任期についてですが、本年の8月25日となっております。その時期になりましたら、事前に団体の推薦依頼、公募の手続き等、進めて参りたいと思いますので、是非とも皆さんには、よろしくお願いいたします。以上でございます。

藤澤会長：その他、委員さんから何かございませんか。

植木委員：昨年11月の会議で、有漢地域の高齢者移動実態調査報告をしていただきましたが、その後、事業計画に向けての調査とか、あるいは地域に対して説明とかあります。今日は休んでいらっしゃいますが、1週間ほど前に、NHKの番組で、橋本先生がいられて、地域との合意形成が非常に大事であると話されていました。事業化に向けて進む中で、色々な情報をその都度出してもらって説明していただきたいです。

事務局：確かに昨年度、民生委員さんを対象とした高齢者移動実態調査の結果を報告しました。その結果を踏まえて、今現在、内部で調整させていただいております。今後の利用人数推計も出ていますので、それをもって、なるべく早めにご相談、ご説明に伺わせていただこうかと思います。本日の議題には上がっていませんが、内部で固めつつ、随時お話出来るように進めさせていただきたいと思います。

植木委員：あの時には、予約型の広域運行ということで、聞いていましたが、その後、とりわけこれだという説明が出来る段階ではないということですか。

事務局：運行事業者さんとの調整も含めて、進めているところです。現段階では、運行形態を含めてこれというご説明出来ない状況であり、引き続き、協議させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

植木委員：公共交通は、採算性、公的負担の在り方の問題もありますが、高齢者ドライバーの事故等が増え、特に周辺の地域は生活の足が大事なところであり、地域の本当の課題、移動のニーズをしっかりと掴んでいただいて計画に盛り込んでほしいものです。14日の山陽新聞に載っていましたが、無人自動車の運行実験がスタートしていますし、無人バスの実証実験が進んでいます。こういう事にもっと力を入れて研究し、早期実用化に繋がるようにしていただきたいと思います。整備新幹線にしても、リニアの新型新幹線にしても、巨額な費用を注ぎ込んでいますが、もっと地域へ寄り添うような事業をしっかりとやらしてもらわないといけないと思います。

藤澤会長：ありがとうございました。他に何かございますか。

東委員：6ページの生活福祉バスの時刻表を見ていただいたらわかると思いますが、一番下の宇治線は、朝8時10分頃に成羽から上がって来るのですが、学生がほとんどでスクールバスのような形です。下りて行く時が回送でそのまま下りて行くのですが、この時間帯は、病院へ行かれる方とか、そういった方が利用すれば、一番いい時刻だと思っていましたが、どうして下りて行く時に停留所で乗せられないのかと前から考えていましたので、今日、こういう会議に出させていただいたので、ひとつ伺いたいのと今後、町民の方がこの時刻に利用出来る方向でも考えていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局：こちらの時刻表にございますダイヤは、運行事業者である備北バスさんと協議の上、地域の皆様にお諮りしています。特に宇治線は、地域の生活福祉バスとして運行していますので、ダイヤの変更等を考える場合は、成羽・宇治の地域の方々の意見を踏まえて色々と検討する必要があります。ご意見は地元の方々や運行事業者さんと検討させていただくとともに、議題等で考えさせていただければと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

藤澤会長：よろしいですか。ありがとうございました。他にどうでしょうか。

政森委員：先程、植木委員さんのほうから有漢のことについてあったのですが、一つだけお願いがあります。センター長さん、地域局長さんが一番市民、町民の声を聞かれています中で、局長さんの意見を取り入れたり、聞いてもらったりして、事業や計画を進めていただければと思います。その点はどうでしょうか。

事務局：先程、公共交通の在り方にも及ぶようなご意見をいただきました。やはり利用されますのは、地区住民の方々ですので、利便性、公共性、そういったものを、今後、皆様のご意見を聞きながら進めさせていただきたいと思います。それぞれの路線の見直しをかける必要がある時には、ご意見を最初に聞きまして、それから進めていくような方法を取りたいと思っておりますので、ご了解いただきますようによろしく願いいたします。

政森委員：今までこの会議でそうした方々のその意見が出なかったもので、今後見直していただきたいと思います。

事務局：公共交通会議におきましては、出来上がった議案ご審議いただくようになっておりますが、議案を作成する段階で、関係者の方々のご意見、ご提言をいただきながら仕上げていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

藤澤会長：ありがとうございました。他にはございませんか。

三宅委員：先程の東委員さんの発言もありましたように、朝の1便はあるけど、次の帰り便は回送に

なっているというお話がありましたが、運行上で回送にしてしまうという事がどういう意味だろうかと思います。

事務局：生活福祉バス等につきましては、運行事業者さんや住民の方々との協議を踏まえて便数やダイヤを決めさせていただいております。決まった予算内での便数ということもありますが、金額面、運行事業者さんのやり方だとかを少しずつ解決していけば、回送便を定期運行にすることも、不可能ではないと思います。

三宅委員：ということは定期便にしたら費用がかかるという事ですか。

事務局：先程から出ております宇治線ですけれども、この経緯としまして、当初備北バスのほうで、宇治線を4条路線で、この時間帯に宇治の方から成羽の方へ下りてくる便があったのですが、全く利用者がいない状況でしたので、あえて宇治高校の生徒さんに利用していただく為にこの時間帯に成羽から宇治へ上がる便を作った経緯がございます。この時間帯に宇治方面から成羽へ、備北バスさんが運行されていた時、ほとんど利用が無いという事情があってこういう形でまた、備北バスさんをお願いして生活福祉バスとして改めて設けた線がこの路線です。回送便をそのまま利用という事ですが、実際利用があれば、そういう形にしますけど、回送は、実際運行するルートと違うルートを通ったりしますので、利用が無い便は回送にしています。もう一点、人を乗せて運行するのと人を乗せずに運行する場合で、乗務員さんの負担がかなり違います。ですから回送と実際にお客様を乗せて走るダイヤに載っている便では運行の委託料単価も違いますのでその辺も考慮して回送としています。

東委員：この地域は、高齢化率が53%を超えて、成羽病院に行かれる方も多く、また、免許返納を次々されていますので、この時間帯に福祉バスとしての同じように停留所で乗れるようになれば今までよりは利用者が出てくるとは思うのですが。

三宅委員：委託料単価というのはどのくらい差があるのですか。

事務局：細かく言いますと、みなし4条と79条という形で二つの運行形態があるのですが、みなし4条の場合、回送の便のkm当たり単価は、実際のダイヤ載っている便の半額です。

事務局：宇治線の設定経緯も説明しましたが、また状況が変わってきているということですので、そういったご意見は審議会の方でお聞きし、変更する必要があるれば検討させていただきます。先程より申し上げます様に利用者の方々を基本に考えさせていただきたいと思えます。

藤澤会長：ありがとうございました。他にはございませんか。

新屋委員：今年4月から備中中学校と成羽中学校の統合により、備中地区の生徒は、専用スクールバスで通学されています。今までは混乗方式で一般客との乗り合わせで運行していましたが、専用スクールバスの運行に伴い福祉バスの利用が非常に低下しています。備中町にしても川上町にしても過疎化が進んでいますので、今後、利用率はさらに下がって行くでしょう。そうすると路線として維持が出来るのかな？という思いもあります。解消するには従来通りの混乗型の運行をするのが適切ではないかと思っています。生徒さんも減少していきますし、住民の高齢化も進んでいって免許離れも進んでいきますので、混乗型の運行のほうへ持って行くような施策をしていただきたと思います。

藤澤会長：ありがとうございました。

事務局：そちらにつきましても早急に解決して行く課題だと考えております。市民課としてもその

ような動きを取って行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

清水委員：私は公募としてこの会に出させていただいているのですが、その気持ちは是非、私たちの生活を守っていただきたい備北バスの利用についてどういった状況にあるかということをご皆さんに知っていただきたい、そういう願いを込めて出させていただいています。例えば、平川から出るバスは、備中中学校（田原）まで生徒を送ってから成羽へ向かいます。私達は、その便で田原に出ますが、一番心配したのは、中学校の生徒がいない為に田原の方へ回らないで出てしまうのではないかと、それを一番に案じました。3人乗っても人口の少ない所の3人と1,000人もいる中の3人とでは率が違うと思います。ふれあいタクシーがあるじゃないかとおっしゃるかもしれませんが、それを使えない理由もいっぱいある訳です。ですからバス停に出ていたらいつでも誰でも乗れる備北バスを絶対に無くしてほしくないわけです。是非お願いしたいと思います。

藤澤会長：ありがとうございました。

事務局：備中地域につきましては、スクール専用のバス3便が新たに設定されて動いている現状は承知しています。それに伴い、平川の路線バス、生活福祉バスの対応につきましては、まずはどの程度の方が利用されるのか、しばらく調べていく必要があると思います。現在ダイヤ改正等は予定していませんが、これは皆様の利用状況を踏まえ、検討させていただければと思います。ただ、今どうこうするというのは、現状ではお示しするものがございませんので、今の現状で皆様にご利用していただくように、ご協力を逆にお願ひさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

藤澤会長：ありがとうございました。他にはよろしいですか。

他に無いようですので、以上で議題の審議は終わらせて頂きます。ご協力いただきましてありがとうございました。

5. 閉会

平松副会長閉会あいさつ